

コッホ現象とは

結核に既感染の児へBCGを接種した際にみられる早期かつ強い局所反応です。
通常は接種後約3週間からみられる反応が、**接種翌日から7日以内**
(多くは2～3日以内)に出現します。
接種部位の強い発赤、針痕に一致した硬結、化膿、痂皮化などがみられることを言います。

【通常の経過】

接種後、約3週間で針痕が目立ち始め、発赤・膿がみられ、1から2か月をピークに痂皮化し、数か月で目立たなくなっていきます。

BCG接種時



- ・保護者へ「コッホ現象」について説明する。
- ・コッホ現象が疑われる場合は接種後7日間は接種部位の写真を毎日撮影するよう説明する。
- ・強い発赤や膿がみられた場合は、接種医療機関へ連絡するよう説明する。

毎日写真を撮影(接種後7日間)



保護者から相談



医療機関で確認 (問診・診察・接種部位の所見確認)

- ☐ 接種部位の発赤・硬結・膿・痂皮化の有無
- ☐ 高まん延国への渡航歴
- ☐ 結核患者との接触歴
- ☐ 接種部位の写真による経過確認
- ☐ 家族内の有症状者や結核既往の有無
- ☐ 必要に応じて来院のうえ診察

聞き取り内容の例

- ・接種をした日
- ・何日目から症状が出現したか
- ・接種部位の症状・全身状態 等

発赤や膿の経過を確認

接種後5～7日以内に軽快・消退

- ・発赤が引いている
 - ・膿が減少している など
- ⇒コッホ現象の可能性は低い

対応

- ・経過観察を行う。
- ・接種後3～4週間で降に通常のBCG反応が出るか確認する。
- ・判断に迷う場合は、各区保健センターや小児科専門医等へ相談する。

接種後5～7日を過ぎても持続、または痂皮化する

- ・発赤が持続している
 - ・膿が持続している
 - ・痂皮化がみられる
 - ・結核患者との接触歴がある
 - ・コッホ現象が強く疑われる
- ⇒コッホ現象の可能性が高い



ツベルクリン反応(ツ反)検査を検討
BCG接種からツ反検査の判定までは原則2週間未満
(7～10日程度が望ましい)に行う。



ツ反陰性

経過観察・再評価または

- ・引き続き経過観察を行う。
- ・反応が強くなる場合や、判断に迷う場合は、各区保健センターや小児科専門医等へ相談する。

ツ反陽性
または
ツ反検査 実施・判定不可

専門医療機関へ紹介、保健センターへ報告

- ・結核感染が疑われる場合は、速やかに紹介と報告をする。
※紹介時にはコッホ現象(疑い含む)の経過、写真、ツ反結果等を伝える。

検査・診断および治療方針の決定が可能な場合は、専門医療機関への紹介は行わず、保健センターへの報告をもって完了とする。

情報共有・連携

診断結果や経過について、
接種医療機関へ情報提供を行い、
地域の医療機関と連携して対応する。

専門医療機関での対応

【検査・診断を実施】

- ・IGRA検査
- ・胸部X線検査
- ・必要に応じてCT検査 など

【結核感染が確定した場合】

- ・適切な治療を実施
- ・結核発生届の届出



報告

【第1報】

(疑い発生時)

コッホ現象(疑い含む)が認められた場合、接種医療機関は速やかに各区保健センターへコッホ現象事例報告書にて報告する。(FAX 等)



(報告内容)

- ・児の氏名、生年月日、住所、性別
- ・BCG接種時期(疑い発生日)
- ・症状の状況
- ・検査、診断結果
- ・医療機関名

※コッホ現象事例報告書は名古屋市ウェブサイトからもダウンロードできます。

【第2報】

(結果・経過判明後)

専門医療機関での診断結果が判明した後、専門医療機関は速やかに各区保健センターへコッホ現象事例報告書にて報告する。(FAX 等)

(報告内容)

- ・児の氏名、生年月日、住所、性別
- ・専門医療機関での検査、診断結果
- ・最終判断(コッホ現象の有無)
- ・治療の有無
- ・医療機関名

※コッホ現象事例報告書は名古屋市ウェブサイトからもダウンロードできます。

困ったときはご相談ください

判断や対応に困った場合は、
各区保健センターまたは
小児科専門医等へご相談ください。

【相談・報告先】

各区保健センター

※各区の保健センター一覧は右記の
二次元コードからご覧ください。



名古屋市

「コッホ現象事例報告書」
ダウンロードはこちら